

滝沢市制服の在り方検討委員会学校意見集約（令和 7 年 4 月 30 日提出締切）

小学校 9 校、中学校 6 校順不同

制服の在り方について学校および PTA からの意見

- ・現在、本校の制服では、女子のスラックス可としており、実際、数名が毎日スラックス（上着は他の生徒と同じセーラー）で登下校や学校生活を送っている。本人たちは自らの意思でスラックスを着用し、周りの目を気にする様子もない。また、周囲の者が奇異な目で見える雰囲気もない。今後も個々の事情に合わせた配慮や運用を続け、互いに尊重し合う態度を一層醸成していき、制服統一化に対応していきたい。
- ・夏場、保護者や生徒は暑さ対策に配慮した服装を求める。そこで本校では、昨年度、指定 T シャツの素材を見直し、新素材の T シャツとハーフパンツを導入し、好評を得ている。（T シャツは、白の他、紺色を選択できるようにした点、前モデルより安価になった点も好評である。）
制服の統一化にあたっては、素材や洗いやすさ、耐久性、手ごろな価格などを明確に説明できる商品を期待したい。
- ・上下+中に着るシャツ類の価格が、現在の制服+中に着るシャツよりも安価になることを期待したい。
- ・とりちがえ等を防ぐため、上下とも内側に名前を記入する箇所を作ったり、名前の刺繍を入れられたりするサービスがあるとよい。（リユース上は無いほうがよいだろうが、学校生活を送る上では、誰のものか分かったほうがよい。）
- ・しわになりにくい素材（下校時、制服を通学ザックやサブザックに詰める生徒が大半）、洗った際に型くずれしにくい素材（形状記憶素材等）、肌にやさしい裏地（特に、腕や太ももが触れる部分）なども検討要素に加えたい。
- ・現在の男子の詰襟制服は、スタイル的にも素材的にも、近年の夏の猛暑に不向きな部分が多い。
また女子制服については、冬型／夏型の 2 種類をそろえなければならない学校もあると聞く。近年の猛暑対策として、ジャージ（T シャツ）のモデルチェンジや素材変更と同様、男女制服のモデルチェンジも必要と思われる。
- ・制服の生地は、冬用、夏用で分けることは検討内容に入っているかを確認したい。
- ・胸ポケットのワッペンだけではなく、各中学校独自の色や柄のリボンやネクタイ等があってもよい。
- ・夏服については熱中症対策の観点から、素材やデザイン等柔軟性をもたせたい。
- ・市内全域での制服リユースの仕組みの構築で、制服デザインの統一の目的が達成され则认为る。
- ・自宅で洗濯可能な制服を希望。
- ・変更時期は令和 8 年からを要望。（令和 8 年から令和 10 年までは新旧制服混在可）
- ・ポロシャツ・ワイシャツ共に指定でも、汎用品でも可を要望。
- ・生徒や保護者それぞれのニーズに合わせて、数パターンから制服を選ぶことができること、制服を快適に着用できるよう素材等を工夫することについて賛成です。
- ・冬の寒さを考慮すると、女子のスラックスの選択可能とする考えに賛成。
- ・昨今の暑さの状況を考えると、生徒の負担軽減となることは良い。
- ・近隣の高校では、ポロシャツや半袖・短パンなどでの登下校の様子も見受けられる。それぞれに暑さ対策が施されているようである。中学校でも臨機応変に対応することは良い。
- ・通気性も良く、家庭での洗濯のしやすさはありがたい。
- ・最近の子どもは、以前と比べると体力もかなり低下している。そのような中、これまでは、首や肩にかかる負担が疲労にもつながっているようである。身軽なデザイン・素材であれば、より快適な学校生活が期待できる。

- ・ジェンダー等への対応については、現在の制服でも対応が定着している為、(スカート、ズボンの選択が可能) 生徒・保護者も特に違和感を持っていない。
- ・ジェンダー等への配慮として、女子生徒のスラックス着用は大いに認められるべきことではあるが、ブレザー+スラックスは問題ないものの、セーラー服+スラックスは容姿上、不釣り合いの面がある。今回の市内制服統一化に乗じて、スラックスに合う上着のモデルチェンジも検討したい。
- ・ジェンダー対応として、希望の性に応じた制服の購入を推進していただきたい。
- ・ジェンダー等への対応については、各校で対応するには値段やデザイン等の問題もあり、難しいのが現状です。
- ・ジェンダー等に対応し柔軟に組み合わせを選択できる制服の必要性、気候変動に対応した暑さ対策や家庭での洗濯可能な素材への変換、制服価格の高騰化抑制やリユースの一層の促進を期待できるものであり、制服を巡る諸課題を解決していく上で有効的な手立てになるものと思われます。
- ・気候変動やジェンダー等に関わり、制服の見直しを図ることは理解できる。
- ・新制服は、現在の制服よりも主に気候変動に対応することができ、性別の違いにとらわれない工夫がされていることから、生徒一人ひとりが自分らしく学校生活を送ることができると思います。
- ・気候変動への対応については、暑さ対策のため、登校後にすぐに運動着に着替えることもあります。低廉価で各家庭での洗濯可能であればよいと考えます。
- ・地域へは(昨年度の) 学校教育振興協議会でもお知らせした。特に異論はなかった。近年は猛暑が続いている為、生徒の健康・安全面を考慮した場合に必要な対応だと思うとの意見もいただいた。
- ・中学校入学時に係る保護者の金銭的負担は大きく、市内統一の制服を導入することで、大口購入(大量生産)による価格の低下や、市内学区外の知人等からの譲り受けも広く可能となり、保護者の金銭的負担軽減や制服のリユースにつながると思う。
- ・リユースに関しては、学校が間に入るものではなく、市または民間業者をお願いしたい。
- ・リユースについては、生徒の着方、保護者の要望等を鑑みた上で進めてほしい。
- ・リユースにより、安価で手に入れられるようになるのはよいが、悪用されることのないような手立てが必要になるのではないかと。
- ・一部の保護者からは、「兄・姉の制服を下の子にリユースさせる予定だったが、制服が統一されると購入しなくなってしまう。」といった意見や、「〇〇さんから制服を譲り受ける予定だった。もし制服が統一されると購入しなければならない。」といった不安の声が寄せられた。移行期間を長くとるなど、統一にあたっては工夫が必要だと考える。
- ・おおむね賛成。制服を市内中学校で統一することで、制服の購入価格を抑えることができ、生徒数の少ない中学校では一定のメリットがあると考え。同一中学校区だけではなく、中学校区を超えた市内全域でのリユース(おさがり)が可能になると考える。市内で統一することで、購入価格を抑えながら、ジェンダーに対応するための複数のバリエーションを用意することが可能になると考える。
- ・購入価格やリユース等については、検討委員会の考え方に同意します。
- ・価格については、入学時の家庭の負担を押さえられるとよい。
- ・すでに男女ともにブレザー型の制服になっている学校がある。コミュニティーも大きくないので、「〇〇君の制服は△△君へ、□□さんの制服は◎◎さんへ。」といったやり取りもある。現在の購入価格を大きく下回らなければ、保護者は制服統一デザインのメリットをあまり感じないと予想される。
- ・制服をブレザー型とすることで購入価格が上がる中学校もあるかもしれない。すでにブレザー型になっている学校にとっては現在との価格差が気になる場所である。いずれにしろ購入価格を試算していただき提示することが重要であると考え。

- ・市として統一することで購入価格が安価に抑えられるなどの利点があるのであれば賛成です。
- ・価格を抑えることができることがありがたい。
- ・「おさがり」しやすいものであれば、家計の負担も少なくて良い。
- ・購入価格を現在より安くしていただけるようお願いしたい。
- ・制服は各中学校の大切にしたい学校文化（所属感や統一感）の一つと考える。その視点に立つと小
学校の意見ではなく、中学校の意見やこれから中学校に入学する児童とその保護者の意見を優先さ
せるべきと考える。とりわけ今、各小学校に在籍している児童（高学年）の思いや希望を知りたい。
- ・市として統一することによって心配されることもあります。それは、生徒指導上、大変な事案等が
発生した場合、関係する学校を素早く特定しにくいという点です。早期対応を迫られるのが生徒指
導でありますので、制服を統一した場合でも、学校が一目でわかる工夫が必要であると考えます。
- ・生徒自身がどう考えているか、もう少し議論があっても良いのではないかな。
- ・それぞれの家庭で、親子で話し合う機会があっても良いのではないかな。
- ・子どもたちと保護者にとって、健康面でも経済面でも効率面でも、子育て世代にとって「優しい」
制度変更になると思われます。
- ・中学校各校の制服に対するシンボル性やアイデンティティ等についてなど、大切にしたい様々な視
点が存在するものと思われますが、上記理由から案に賛成いたします。
- ・現在は、滝沢市内の中学校全体が落ち着いているので大きな関心事ではないが、他校との生徒間交
流の中で生徒指導事案が発生した場合など、所属学校の判別が難しくなるという点が懸念される。
- ・学校としては基本的には、本校PTAの意見を尊重する。
- ・各校の生徒の意見を吸い上げ検討していることが大切である。
- ・生徒の意見を尊重する意味でも、検討会の場には、常に生徒代表者が参加することを要望する。
- ・生徒一人一人の自律を育む上でも、生徒が自らの判断で選択するという方法をとることを要望する。
- ・なぜ制服が必要かという原点を見失わないような今後の在り方の検討が必要であると感じる。